

市では、現在新たなまちづくりの指針となる新総合計画の策定を進めています。計画を審議する総合計画審議会の委員の皆さんに、これからのまちづくりに期待することなどを伺います。



NPO法人 STORIA  
代表理事  
佐々木綾子さん

プロフィール

ひとり親やさまざまな困難を抱える家庭と子どものサポートをはじめ、子どもの可能性を切り開くための居場所づくりを応援。地域や企業などと協働し、共生社会を目指す



NPO法人 FORTYOU  
理事長  
小岩孝子さん

プロフィール

平成7年にNPO法人を立ち上げ、子育て支援やシニアがシニアを支える仕組みづくりを推進。学校や行政と連携した学習支援、防災・減災事業にも取り組む

**Q** 子育て環境において大切にしたいことは？

**A** 小岩 児童館や子ども食堂事業などに携わる中で、いじめや不登校の問題を抱えている子どもが増えているように感じます。その子たちが自分らしく生きていける環境をつくるために、学校教育・家庭教育・社会教育の3つをつないでいくことが大事だと、審議会でもお話ししました。

**佐々木** 特に近年は震災や豪雨災害、新型コロナウイルス感染拡大など、精神的にもダメージを受ける出来事が続いていますので、命と心を大切にするという原点に立ち戻る時機ではないかと考えています。私たち大人の方が見直して、子どもたちが自己肯定感を高められる環境を育みたいですね。

**小岩** そのためには、学校・家庭・地域の連携が不可欠。また小学校から中学校へ進む時に不登校になる子が多いので、切れ目のない子育て支援も求められています。  
**佐々木** 今は子育ての環境も多様ですから、ご家庭だけで子どもを育てていくのは大きな負担があると思います。地域や社会も含め、みんなで子どもたちを育てていくことが大切だと思います。



児童館や学校、家庭など、子どもの居場所はさまざま。社会全体で子どもを育てていくことが大切です

**Q** 学校・家庭・地域の連携に必要な視点は？

**A** 小岩 子どもたちの世界は学校だけではなく、放課後の居場所や家庭での時間など、広範囲にわたります。学校や家庭では見えない子どもの良いところや問題行動に、地域の人たちが気付くこともありますよね。

**佐々木** そうですね。子どもたちはもともとクリエイティブな存在

ですから、環境によって、可能性も大きく広がります。子どもの能力や個性を一部の成果で判断するのはなく、存在そのものを受けとめることが大切です。地域の方々が子どもたちのポジティブな面を親御さんに伝えることで、親御さんたちの安心感や自信にもつながると思います。

**小岩** 東中田地区では、小学校と中学校、さらに地域住民が協力し、和太鼓の練習や演奏会を行っています。学校では下を向いているような子どもも、和太鼓をたたいている時は生き生きとしているんですよ。地域で輝ける場所があれば、ヒーローになれるます。それをきっかけに、子どもや親の生き方も少しずつ変わってくると思うんです。子どもたちの未来のためにも、このような地域一体となった子育てが必要だと感じます。

**佐々木** そうした地域のつながりによって、大人が子どもから教わることもたくさんあります。これからは子どもも大人も一緒に学んでいく「共育」の時代。さまざまな立場の方がお互いの価値観や思いを尊重しながら、共に育っていくことが大事だと考えています。

**Q** これからの仙台に期待することは？

**A** 小岩 東日本大震災からちょうど10年を迎える令

和3年に新総合計画が始まるというところで、新しい仙台をみんなの前向きにつくっていく機運も高まっているように感じています。

**佐々木** 今年8月にまとめられた中間案においても、さまざまな分野の知見が集約され、創造的な計画が示されましたね。その中には子どもたちの未来を広げる「笑顔咲く子どもプロジェクト」も掲げられていますので、これから市民皆さんのご意見も取り入れつつ、さらに審議を重ねていきたいです。

**小岩** 仙台市はこれまででも市民協働や地域連携によるまちづくりが盛んなので、今後はもっと加速させていけたらいいですね。子どもも大人もお年寄りも、一人一人ができることを少しずつ形にしていく。そんな仙台であり続けたいですし、その思いも盛り込んだ新総合計画になればと期待しています。

**佐々木** 世代によって課題は異なりますが、その先にある「ありがたい仙台」のビジョンに向かってみんな対話を深めていけば、さまざまな課題をクリアしていけるのではないのでしょうか。お互いの役割や強みを掛け合わせることで、仙台の4つの都市個性「共生」「学び」「環境」「活力」が深まっていくことを願っています。